

中村哲さんと八田與一さんの動画を見て、2050年までに私が成し遂げたいことは、途上国の農村地域の農作物を自給自足型から市場志向型に変え、農業従事者の収入を向上・安定させることです。

私は農業土木や経済学者のような高度な専門スキルを持っているわけではありませんが、農業開発コンサル会社や、大学院での経験から、地域開発や農業開発の事例研究・プロジェクトマネジメントなどのソフトな分野を学んできました。また、農業開発やコミュニティ開発に強い関心を持っており、将来は地域に根ざした開発プロジェクトや農作物の生産向上（アグリビジネス）に携わりたいと考えています。

中村さんや八田さんの活動は、国際機関や政府機関の援助とは異なり、長期間にわたって現地に滞在し、地元の人々と共にプロジェクトを進めていた点が印象的でした。彼らは自分や自国の利益ではなく、地元の人々やコミュニティを最優先に考え、プロジェクトを遂行していました。この利他的な姿勢に強く感銘を受けました。日本の援助機関では、資金や期間が決まっているため、地元の人々を100%優先させるのが難しい現状があります。しかし、中村さんのような支援体制は、地元の人々が主体であり、協働しているため、持続可能で安定的な生活を実現させるものだと考えます。

私が経験を積み、プロジェクトのリーダーとして活動できるようになった際には、地域に長期間滞在し、現地の人々と共に援助プロジェクトを行いたいと思います。今まで培ってきたノウハウを共有しつつ、市場調査や、付加価値をつける農作物について地元の人々と一緒に考えていきたいです。市場志向型の農業への移行により、農業従事者の収入向上、地域経済の活性化、地域のエンパワーメントにつながれば、非常に嬉しく思います。

中学生の頃からの夢は国連職員になることで、そのためにこれまで奔走してきました。しかし、援助を行うには「専門性」が不可欠です。これまで幅広い知識を学んできたため、自分にとっての専門性とは何か、どのように専門性を築くべきか、ファーストキャリアとして何を選ぶべきかといった問いが、修士課程を終えようとする今、頭を悩ませています。今回の課題を通じて、自分がやりたいことを再考する良い機会となりました。まだ悩みが解決したわけではありませんが、2050年には多くの人に貢献できる人間でありたいと思っています。そのために、中村さんや八田さんのように、利他的かつ長期的な視点を持ち、他者のためにできることを全力で実践していきたいと感じました。